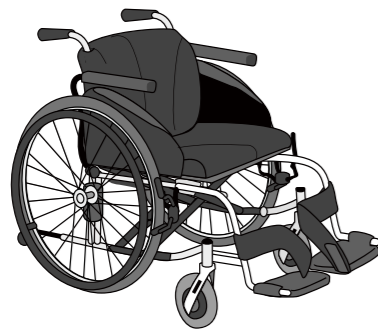


コラム

車椅子の紹介

今回のガイドでは、以下の3種類の車椅子で飲食施設取材しました。

手動車椅子(特注品)



特徴

手でハンドリムをつかみ、自分で走行できるタイプです。小回りも効くので、比較的狭い場所でも通ることが可能です。非常に軽量でコンパクトなタイプもあります。病気や事故により歩くことが困難ですが、上半身は動かすことができる方向けです。

サポートは、扱い方を熟知していれば大人1人でも可能です。

仕様

- ・重量: 約9kg~20kg
- ・幅 : 約58cm~68cm
- ・全長: 約90cm~120cm

簡易電動車椅子



特徴

手動車椅子に電動バッテリーとタイヤを取付け、手元のレバーで走行するタイプです。電動と手動に切替え可能なタイプもあります。上半身も弱い方向けです。

手動車椅子に比べ重量は重くなる為、段差での持ち上げには大人が3~4人いると安全です。

仕様

- ・重量: 約23kg~38kg
- ・幅 : 約59cm~70cm
- ・前長: 約100cm~120cm

電動車椅子



特徴

車椅子自体に電源が組み込まれており、手元のレバーで走行するタイプです。リクライニングや、立上り機能付きのようなものもあり、重度障がい者向けです。

重量は100kgを超えるものもあり、安易に持ち上げたりするのは危険です。段差を越えるためにはスロープが必要です。

仕様

- ・重量: 30kg~120kg
- ・幅 : 58cm~69cm
- ・全長: 100cm~120cm

その他の種類の車椅子を紹介します。

手動車椅子(一般市販品)



特徴

自分で走行することも、押しってもらうこともできるタイプです。量販店などで購入することが可能です。高齢者・一時的な怪我の方向けです。

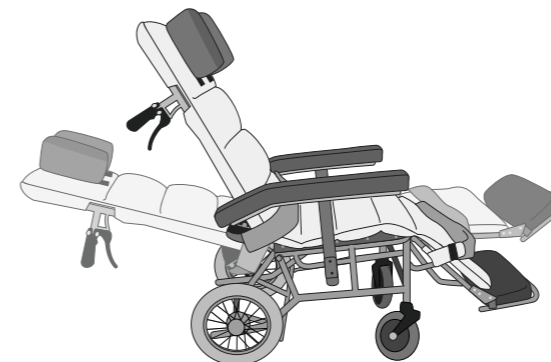
介助式車椅子



特徴

押ししてもらわないと自分では走行できないタイプです。量販店などで購入することが可能です。高齢者・一時的な怪我の方向けです。

ストレッチャー式車椅子



特徴

押ししてもらわないと自分では走行できないタイプです。背もたれを倒し、足置きを上げることで、ベッドのように横になることが可能です。座位保持困難な方向けです。

子供用車椅子(バギー)



特徴

ベビーカータイプです。安定感があり重量があるため、折りたたむことが難しいです。車椅子利用開始前の障害児者向けです。

飲食施設のバリアフリー対応について

ひと口にバリアフリーと言っても、設備のバリアフリーだけではなく、段差で困っていればお手伝いする心のバリアフリー、店内に多目的トイレがなければ近隣のトイレ情報を提供する情報のバリアフリー等、様々な対応方法があります。

ここでは、今からでもできる飲食施設の利用者および運営者のバリアフリー対応についてご紹介します。

利用者側

1. バリアフリーや介助方法について周囲に伝えましょう。

「何がどう困っているのか?」「何をどうしてもらえると助かるのか?」など、施設の方に伝えましょう。「入口に段差があって入れないのですが、お手伝いいただけませんか?」「ここを持ち上げてください。」と伝えれば、施設側も対応しやすく、その後、同じような場面でも対応できるようになります。

2. サポートしていただいた時にはお礼を伝えましょう。

車椅子で段差を乗り越えたり、通路の幅を確保するために席を立ていただいたり等、周りの方にサポートしていただくこともあるかもしれません。その時にはお礼を伝えるようにしましょう。

飲食施設側は全ての要望に対応できるとは限らないことを知っておきましょう。

障害者差別解消法第3章8条2では、事業者は合理的配慮として「社会的障壁の除去の実施について必要かつ合理的な配慮をするように努めなければならない。」とされていますが、飲食施設側は全ての要望に対応できるとは限りません。

運営者側

1. 情報のバリアフリー

バリアフリー情報を飲食施設のホームページ等で情報公開しましょう。情報公開することで、それぞれの障害程度で利用できるかの判断ができます。

【具体例】

- 写真とともに段差の高さや間口の幅を数値で表示する。

2. 心のバリアフリー

高齢者・障害者が困っている場面に遭遇したら、何か困っていることはありませんか?と声をかけてみましょう。設備のバリアフリーが整っていない場合でも、心のバリアフリーがあれば、高齢者・障害者が安心して利用できます。

利用者の要望に沿えない場合は、理由を丁寧に説明したり、代替案を提示したりと、様々な対応方法があります。「このような場合はどうしたらよいか?」と疑問に思ったら、障害当事者の方に聞いてみましょう。より良いバリアフリー対応のヒントを得られるかもしれません。

【具体例】

- 飲食施設に多目的トイレが無い場合に近隣の多目的トイレや、最寄駅でエレベーターのある出入口を把握しておく。
- 聴覚障害者の方と筆談したり、視覚障害者の方にメニューを読み上げたり、車椅子ユーザーの方が段差を乗り越えるお手伝いをする。



3. 設備のバリアフリー

お店の設備のバリアを解消しましょう。(国土交通省観光庁からのバリアフリー化のための補助制度もあります。)

【具体例】

- 入口や店内の段差にスロープを設置する。
- 間口や通路の幅を80センチ以上にする。
- 固定式の椅子を可動式にする。
- トイレに手すりや背もたれなどの身体補助具を設置する。



「バリアフリー新法」「障害者差別解消法」等、バリアフリーや障害者に関する法律を理解することは難しくても、以上のように様々な対応方法があります。これらの対応により、障害者や高齢者も飲食施設を利用できる機会が増えるようになります。全ての国民が相互に人格を尊重し合いながら共生できる社会を目指しましょう。

身体障害者補助犬について

身体障害者補助犬法 (平成14年10月1日施行)

- 補助犬とは、「盲導犬」、「介助犬」、「聴導犬」の3種類の総称です。
- 身体障害者補助犬法では、公共施設や公共交通機関だけでなく、個人店舗や民間施設などにも同伴の受入義務が示されています。
- 使用者には、補助犬であることを示す表示(認定証)と健康管理手帳の携帯が義務付けられており、不明な場合は、提示を求めて確認しましょう。



▲法律で定める表示(認定表示)

補助犬の種類

盲導犬



視覚障害の方の安全で快適な歩行をサポートします。白または黄色のハーネスをつけています。

介助犬



肢体不自由の方などの日常生活動作をサポートします。「介助犬」という表示をつけています。

聴導犬



聴覚障害の方に必要なことを教え音源へ誘導します。「聴導犬」という表示をつけています。
(様々な犬種が活躍しています)

補助犬の受入にあたって

- 補助犬は、使用者に寄り添い生活を支えるパートナーです。補助犬について正しく理解し、適切に受入れることが大切です。
* 障害者差別解消法の中で、同伴の拒否は差別的取扱いとされています。
- 補助犬の健康面や衛生面、行動は使用者が管理しています。周りの方に迷惑をかけることはありません。
- 補助犬を同伴していても、使用者に声をかけ、支援が必要かを確認しましょう。
- 外出中、補助犬は常に仕事をしています。触ったりせずそっと見守ります。
* 周りのお客さまにもそっと注意を促しましょう。
- 座る位置など、補助犬が周囲に迷惑をかけている場合は使用者に伝えます。
- 犬アレルギーの方、犬が苦手な方もいるため、隣の席の方に声を掛けましょう。
- 排泄場所を尋ねられた時には、希望の場所を確認して案内します。
例) 土や植え込みのある場所、アスファルトやコンクリートなど

(出典:観光庁 2018年3月「高齢者の方・障害のある方などをお迎えするための接客マニュアル」)

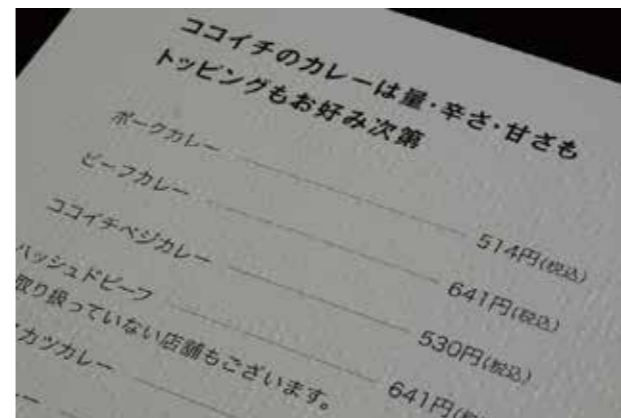
点字メニューについて

- 点字メニューとは、点字で料理名等を表記しているメニュー表のことです。これにより、視覚障害者が点字でメニューを読むことができます。
- 点字メニューがない店舗でも、メニューの読み上げや音声アプリの活用等により注文することが可能となります。

例えば、下記の飲食チェーンの各店舗において、点字メニューが用意されています。

『CoCo壱番屋』

※一部の店舗では価格が異なります。

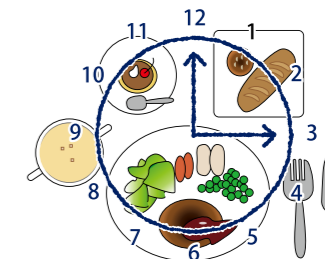


※今回調査した109施設のうち、点字メニューのある施設はありませんでした。

視覚障害者への料理配置の説明について

視覚障害者の方に料理を配膳する際には、お皿に手を導きながら料理の配置を説明します。

- お客様に一声かけてから、料理の内容と配置を丁寧に説明します。
* 特に、スープや飲み物などの熱いもの、こぼれる危険性のあるものがある場合は、食事の前に手を導いて確認していただくことが大切です。
- クロックポジションを用いて説明するなど、わかりやすい説明を心がけます(方向の伝え間違いに注意が必要です)。
例) 1時の方向にパンがあります。
9時の方向に温かいスープがあります。



クロックポジションのイメージ

(出典:観光庁 2018年3月「高齢者の方・障害のある方などをお迎えするための接客マニュアル」)

